転換期社会の角度から見る中国の社会変動

——関西学院大学社会学部創立三十周年記念講演要旨——

中国人民大学副学長
中国社会学会副会長 鄭 杭 生

謝 小 彬
高 巍 訳

この盛大な記念行事において、私はまず中国人民大学社会学部、中国社会学会を代表いたしまして関西学院大学社会学部創設三十周年及びその素晴らしい発展と成果に対して心からお祝いを申し上げます。そして佐々木学部長ならびに遠藤先生、津金沢先生及び社会学部の先生方の心のこもったご招待に深く感謝いたします。

中国の社会変動に関するテーマがこの盛大な記念講演の主題とされることから、貴学部の中国に対する重視と関心が十分に伺われます。一人の中国の社会学者として講演者になれることは私にとってたいへん光栄に存じます。このことから貴学部の中国そして中国人民大学に対する深い友情が感じられ、日中国交正常化二十周年に際し私どもは特にこの友情を大事にいたします。

中国における社会変動の問題は、私から見ればそれが伝統社会から近代社会への転換期にあることが非常に重要であります。この問題に関しては私は1989年に「転換中の中国社会と成熟中の中国社会学」と題する論文を書き、同年10月に出版された「中国社会年鑑」に発表しました。その論文では主に中国における十年改革の実際状況について述べましたが、今日は特に理論面から中国の社会転換のいくつかの問題について話したいと思います。

一. 中国における社会転換の要因：外生因と「防壁反応」(Protect screen effect)

社会は巨大かつ複雑な有機的システムであります。一般的に言えば社会システムの運営に影響を及ぼす要因は二つあります。一つはシステム内の要因すなわち内生因であります。内生因は社会システム内における各構成要素の間の矛盾と激突によって発生し、例えば中国歴史上の農民一撥は我国の封建社会における農民階級と地主階級との基本矛盾の激化の結果であります。もう一つは外生因であります。いわゆる外生因は社会システム外の要因が当システムに影響、作用することであります。更に外生因にも二つあります。一つは他民族・国家の侵略であり、例えば過去の西側列強による中国に対する侵略がそれであります。二つ目は社会システムに対する外来の思想文化・科学技術・生活様式などの影響であり、現代中国における近代化過程がそれにあたります。我々はここで社会運営に対する外生因の影響、とりわけ二つ目の外生因に着目いたします。

外生因は必ずしも社会システムの変化を起こすとは限りません。社会運営に影響できるかどうか及び影響の程度を決める要素は二つあります。一つは外生因による影響の強度と頻度であり、もう一つは社会システムの防壁反応の有効性であります。外生因の影響の強度と頻度が十分でなければ、社会システムに対して有力なインパクトを与えることができません。これは社会運営が一定の慣性を持ち、元来の運営方向と運営方式を保つ趨勢を持つために、弱い外生因は社会システムに大きな影響を与えることができないのであります。同様に社会システムに強い「防壁反応」が生じるならば、様々な外生因を有効にシステム外に拒むか外生因を社会運営に影響できない程度まで抑えられるために、外生因は社会運営により大きい影響を与えることができません。例えば電車の中でラジオを聞こうとして、全ての窓を開けても番組

がはっきり聞こえないことは電車の金属車体による「防壁反応」が生じラジオの電波の伝播に妨害を与えたためであります。

以上の観点から、なぜ中国における伝統社会から近代社会への転換が19世紀の半ばまで遅れて、そして今世紀の70年代になってから漸くそのスピードを加速してきたことは容易に理解できると思います。まず近代化国家には絶えず自己改善する過程があります。この過程において近代社会と伝統社会との落差はそれほど強烈ではないので、その影響の強度と頻度も高くなかったです。このため伝統社会に対する影響は弱かったのであります。しかし第二次世界大戦以後の科学技術の高度発展によって近代化国家の近代化程度が高くなり、伝統社会との落差が次第に増大したためその影響の強度も次第に大きくなって来ました。特に今世紀六十年以来、近代技術の開発によって人類の生活が大きく変わり、人類の生きている地球も小さくなり、いわゆる「地球村」になったのであります。世界各国の関係が日増しに密接になり、国際間の交流も増えつつあります。社会システム間の相互浸透、相互影響もますます強まるようになります。このため、中東の石油輸出国における小さなクーデターは遠くのウォール街の証券取引に大きな影響を与えることができ、そしてテレビ技術と衛星通信技術の高度発達によって田舎での赤ちゃんの誕生のニュースが一晩で全世界に伝わります。つまり高度発達の近代技術は近代と伝統との格差を拡大し、伝統の時間と空間の観念を縮小させ、国際間の交流を促進したのであります。言い換えれば、近代化による外生因の強度と頻度が大幅に高まったことによって伝統社会に対する衝撃もより強烈そして頻繁になってきました。これは我国における改革開放の外部環境であります。

一方中国の社会システムの内部から見ると、「防壁反応」の作用も無視できません。中国は五千年の文明史を持つ東方の大国であり、その長い発展過程において独自の民族伝統社会文化と価値体系を形成しました。これは成熟度の非常に高い伝統社会であります。その成熟性は二つの面で表われています。すなわち第一に、良好な調節機能と修復機能があります。中国の伝統社会において矛盾と衝突は長い間の協調と妥協の結果、高い安定度を持つ相対的に秩序のある社会構造を形成しました。この安定状態はたびたび宮廷の内乱、農民一撥などによって破壊されたにもかかわらず良好な調節機能と修復機能の働きによって伝統社会を以前のバランスに回復させることができます。

第二に、外生因の影響に対して「防壁反応」が生じます。中国の伝統社会において、一般的な社会秩序は法によって維持されるのではなく、宗族法、慣行そして下層階級の上層階級に対する絶対的服従によって維持されていました。儒教の「仁義」思想、封建的倫理慣行を核心とする中国の伝統観念は非常に深い社会基礎を持ち高度に成熟したのであります。外生因がこのような厚い文化累積と悠久な民族伝統を動揺することはそれほど容易ではありません。中国の伝統社会における「防壁反応」は非常に顕著で「中体西用」の思想もその主流であったのです。1978年以後我国は思想解放を行なって改革開放の新たな歩みを始めました。まずその第一歩に思想観念から「防壁反応」を解除し、明確に仕事の重点を経済建設に移すという政策を提出しました。これは我国における改革開放の内部要因であります。中国の伝統社会の「防壁反応」を分析するには一つの事実を考慮に入れねばなりません。それは中国の建国以後における西側諸国特にアメリカの中国に対する軍事包囲、経済封鎖そして政治的孤立化という敵対的政策が客観的にこの「防壁反応」を増大させたことであります。

中国における社会転換は1949年を境界線に、前期と後期の社会転換に分けることができます。前期の社会転換は1840年から始まり、伝統中国社会は帝国主義列強の侵略によって門戸開放を迫られました。これは苦痛に満ちた過程であります。中国の社会転換の源は外生因にあり、そして外来民族の侵略であったのです。前期の社会転換の目標は資本主義産業化社会の建設でありましたが、伝統中国社会の巨大な慣性と外来の殖民地勢力の妨害によって、この目標が実現する可能性がなくなりました。これに伴って長期にわたる社会不安定と歴史の重複がありました。1949年の中華人民共和国の成立は、中国における社会転換が新しい時期すなわち伝統社会から社会主義近代化社会への

転換時期に入ったことを意味し、更に1978年の中国の改革開放宣言は中国の社会転換が新たな段階に入ったことを示しています。その目標は「中国の特色を持つ社会主義を建設する道に沿って、自力更生、艱苦創業、我国を富強、民主、文明的な社会主義近代化国家に建設する」ことであります。

以上の分析を通じて、我々は外生因が中国の社会転換の動因であり、そして「防壁反応」を壊すことがその内部条件であることを指摘しました。なぜなら、「外生因は変化の条件であり、内生因は変化の根拠であります。外生因は内生因を通じて作用する」からであります。

二. 中国における社会変動の内容：社会構造、社会運営のメカニズムと価値体系

社会変動には主に三つの内容があります。すなわち、社会構造、社会運営のメカニズム、そして価値体系の変動であります。

1．社会構造の変動

社会構造は社会システム各構成要素の間の比較的安定した相互連関の形式であります。研究者が異なる角度から社会を考察するならば、社会には異なる構造が存在することがわかります。例えば階級構造、職業構造、社会規範構造などがあります。比較的一致した考え方としては社会構造は政治、経済、文化という三つのサブシステムからなります。社会構造は一定の歴史条件と民族伝統に関連するために歴史的そして具体的であります。一般的状況において社会構造は比較的安定した状態にあり、各構成要素もバランスのとれた動態均衡にあります。しかし外生因の影響で、社会構造が破壊され社会動揺を起こす恐れがあります。いわゆる社会動揺は外生因あるいは内生因の作用を受けて、各構成要素の連関が弱められ社会の全体化程度が低くなり、システムにおける機能の乱れ、構造の失調が起こり、システム全体の動態均衡が破壊されてしまう社会状態であります。

社会構造の動揺の結果は三つあります。まず第一に構造の復元であります。社会動揺が起こった後システムの自己調節メカニズムの作用によって社会が元の動態均衡に回復し、社会構造はもとの連関方式を維持して機能を発揮します。この際社会構造には質的変化がなく、量的変化も大きくありません。我国の歴史上における宮廷交替後の封建社会（内生因による）はこれであります。

第二は構造の再編であります。すなわち元の社会構造が徹底的に破壊され、各構成要素は新しい方式に基づいて再編されます。いくつかの旧い要素が消え、新しい要素が生まれます。これらの要素はある期間の妥協と協調を経て、新たな動態均衡を形成します。社会構造には量的変化があり質的変化もあります。第二次世界大戦後世界各地の植民地、半植民地に民族独立運動が起こり、一部の国家は資本主義の道を選びましたが、中国は社会主義の道を選択しました。

第三は構造の変革であります。すなわち社会の基本構成は変わりませんが、局部の調整と変動が起こります。構造変革の過程において、当然いくつかの新しい要素が生まれそして旧い要素が消えていきますが、社会の基本構造の変化が少ないために、量的変化が主要であり、質の変化は局部的であります。例えば我国の春秋戦国時代の商鞅変法、北宋時代の王安石変法などや我国で現在推進している体制改革がこれに属します。ですから我国の体制改革の性質は社会主義制度の自己調整、自己改善で、国際環境の変化に適応し社会主義近代化を実現することであります。この性質を把握し、改革の方向をはっきり認識することは我国の社会主義近代化の建設事業にとって非常に重要であります。このために我々は外国とくに貴国からあらゆる中国の社会発展にとって有利なことを学ぶべきであります。我々は改革開放を拒否する誤れる傾向に反対する一方、「全盤西化」の傾向にも反対します。この二つの極端な道は中国の近代化事業を誤る道に導くことにほかなりません。我々にはこのような失敗の経験がたくさんあります。

2．社会運営のメカニズムの変動

社会構造の変革が一連の連鎖反応を起こすために、社会システム全体もそれにともなって適切に調整を行ないます。その中で最も重要な変化は社会運営のメカニズムの転換であります。社会運営のメカニズムとは社会運営に影響する諸要素の相

互関連の方式及びこれらの要素が社会運営に対する影響の作用原理と作用過程を指します。転換する前の伝統社会は秩序のある社会であり、動態均衡の状態にありますが、社会構造の変革はその秩序を破り元の動態均衡を破壊して新しい社会秩序と動態的衡を作ろうとします。当然のことですが、新しい動態均衡と言ってもそれは徹底的否定あるいは根拠なき創造ではなく、あくまでも選択的継承と継承的創造であります。

社会転換の過程において、社会運営のメカニズムはもとの社会運営メカニズムから新しい社会構造に適応できる運営メカニズムへ変換し、社会構造が完全に近代化社会構造に転換できるまで変革し続けると同時に、社会の運営メカニズムも近代社会の運営メカニズムに転換できるまで変革し続けます。このため、転換期の社会構造の安定性は比較的弱く社会運営のメカニズムも絶えず変化します。そしてその変動も緩やかな変化であります。

社会運営のコントロールのメカニズムを例にすれば、伝統中国社会の統制権威は主に伝統的権威とカリスマ的権威であり、合理的権威ではなかったですが、しかし近代社会において合理的権威は伝統的権威とカリスマ的権威に代って支配の主体になります。この変化は社会統制のメカニズムの変動を起こし、近代的社会統制のメカニズムを樹立しますが、変化の過程が漸進的であります。まず三者の併存、それから伝統、カリスマの縮小と合理的権威の拡大であります。この趨勢は中国社会の中ではっきり現われ、顕著な進展もありましたが、まだ長い道があります。これは矛盾と衝突に満ちた過程であり、コントロールのメカニズムも時々構造失調、機能混乱になることが避けがたく、我々は社会転換の困難性と長期性を十分に認識して、その規律を分析し矛盾と衝突を減少することに努力しなければなりません。

3．価値体系の変動

社会転換は構造変動とメカニズムの変動を意味するだけではなく、価値観そして行為様式の変動をも意味します。パーソンズ、アイゼンシュタット、ラーナー、バゥアなどを代表とする近代化理論家たちは社会を類型化（伝統社会と近代社会）するのに価値観、行為の様式と信仰の重要性を強調し、価値観の変動が社会転換の最も重要な前提条件であると主張しました。彼らは第三世界の発展は西洋の思想と価値観の伝播及び「合理的産業化」によって実現され、第三世界はこれを通じて伝統主義の障害を排除し近代的社会になると予言しました。社会転換における価値観の変動の重要性を強調することが合理的な面を持つことはいうまでもありませんが、価値観の変動を単なる「西洋化」にとどめるのはあまりにも西洋中心的で、我々は反対します。アイゼンシュタット本人も〝西洋諸国が先に近代化を実現したが、非西洋諸国が文化の西洋化及び西洋諸国から発達した近代性を持つ具体的文化形式と組織形式を受入れなくてもあらゆる近代性の特徴を持つ社会に発展することができる〟と述べました。中国伝統社会の封建宗法思想、小農意識などの近代社会にまったく相容れないものは社会転換の中で消しますが、しかし伝統と現代はすべて対立していると言い難いのです。全ての伝統文化を否定する民族虚無主義は中国の近代化事業に有益ではないでしょう。

社会変動の過程を見ればまず物的変動であり、その次は制度面の変動、最後は社会心理と価値観の変動であります。アメリカ初期の社会学者であるオグバーンは文化変動を研究し、文化遅滞論を提出しました。彼は文化を物質文化、制度及び観念文化に分け、後者を「適応文化」と呼びました。適応文化は物質文化に適応して変動しますが、物質文化の変化が度々適応文化より早いために、文化変動のスピードは一致せず、各部分の関係が緊張になります。これはいわば文化遅滞であります。もちろん三つの次元の社会転換は三つの段階で行なっているのではなく、相互に深く関連するのです。これは社会運営の一種の特殊な状態である「転換期社会」の複雑な現われであります。

三．中国における転換期社会の特徴：ハロー効果、滝効果、連鎖効果

転換期社会は一種の特殊性を持つ社会運営状態であり、その特殊性とは社会の移行性（過渡性）、不安定性で、一つの動態均衡から次の動態均衡へ絶えず移行しながらどの動態均衡の安定性も低い

ことにあります。もし伝統社会を両極の一端としてみれば、近代社会は他の一端であります。両者ともより安定した社会構造を持ち、相対的に安定した動態均衡にあります。転換期社会はちょうどこの両端の間にあります。F. W. リッグスはこれを〝巨大かつ発展的連続体〟として把握しましたが、ラーナーはこれを〝一つの動的範疇〟であると主張しました。しかしほとんどの学者はこれを〝転換期〟と称します。

現代中国は伝統社会から社会主義近代化社会へ転換する移行期（過渡期）にあり、転換期社会であります。中国の社会運営と発展を研究するには、この現実を考えなければなりません。外部条件から見ると、中国の社会運営と発展は〝後発産業化効果〟によって制約されております。

いわゆる〝後発産業化効果〟は西側発達諸国が既に近代化を実現した国際背景において、発展途上国の発展過程がその影響と制約を受けることによって生じた一種の特殊な効果であります。〝後発産業効果〟に関しては、多くの学者が既に専門的な論議を行なってきました。例えばある学者によると、〝後発産業化効果〟は発展途上国に10個の難題をもたらしました。それは①発展する道と戦略目標を選択しにくいこと。②先進文化の輸入による社会有機体の機能混乱は調整しにくいこと。③日増しにひどくなる〝せっかち〟病は克服しにくいこと。④伝統の重い負担から抜け切りにくいこと。⑤立ち遅れの心理は取り除きにくいこと。⑥経済発展の不均衡を変えるのは困難であること。⑦消費の膨張は抑制しにくいこと。⑧人材の流出はコントロールしにくいこと。⑨政治の不安定。⑩旧い世界経済の秩序の影響は避けにくいこと。

しかしこれに対して楽観的な意見もあります。すなわち何事にも二重性があり〝後発産業化効果〟も例外ではありません。そして上の10個の難題に対応して10個の利点、例えば先進諸国の経験を吸収することによって回り道が避けられる、先進文化の吸収によって文化の更新過程を短縮できるなどが挙げられました。後者の観点は〝後発産業化効果〟の消極的影響だけを見るのではなく、その積極的影響をも認識しました。これは弁証法的かつ全面的な観点であり、外部条件としての〝後発産業化効果〟が現代中国社会の良好な運営と調和発展に及ぼす影響を認識するには大いに役に立ちますが、ここで我々が注目したいのは内部条件すなわち〝転換期効果〟が現代中国社会の良好な運営と調和発展に如何に作用するかということであります。

〝転換期効果〟と申しますのは、社会の転換過程において社会構造転換の不同調性また〝後発産業化効果〟の影響が転換期社会に及ぼす特殊的な効果であります。我々の考えでは転換期効果が現代中国において主に三つの面で現われております。すなわち、ハロー効果、滝効果と連鎖効果であります。一方ある研究者は中国の転換期社会の特徴を異質性、形式主義と重複性であると主張しました。異質性は伝統と現代との雑然併存、形式主義は形式と実質との離脱、そして重畳性は社会機能の普遍化と専門化が重なり、現代社会のように構造が分化し機能が専門化していないことを指します。この分析はある側面からみれば中国の転換期社会の特徴を表わし、一定の参考価値がありますが、現代中国の実際状況を見れば、我々は〝ハロー効果〟〝滝効果〟〝連鎖効果〟と言った表現がより正確に中国の転換期社会の特徴を示すことができると思います。次はこの三つの効果について簡単に分析してみます。

1．ハロー効果（Moonhale effect）

ハロー効果はもともと社会心理学の用語で、他人に対する知覚的偏差の傾向を指しますが、ここで我々の言う転換期社会のハロー効果は西側先進国の高度発達の物質生活と伝統社会の低い生産力による物質生活との巨大な落差に目を奪われ、西洋社会の今日を転換期社会の明日であると見なし、西洋のものならすべて先進的と盲目に受入れる現象であります。

人類の生存にとって物的条件は最も基本的需要であり、人類の活動の〝第一の前提〟（マルクス）であります。高度発達の物質生活条件を追求することは人間の常情であり人類社会の発展の基本的動力でもあります。転換期社会の〝ハロー効果〟を分析するには、以下の事実に注意しなければなりません。即ちほとんどの西洋近代化国家は数百年の発展過程を経て、近代科学技術を発明し、高

度完備、高度発達の物質文明を創造したのです。西洋諸国の社会成員が豊かな生活を送っているのに対して、転換期社会はまだその社会成員の衣食問題を解決するに手を焼いているところであります。豊かな物質生活は転換期社会にとって追求する目標でありますが、問題は如何にこの目標を達成するかであります。巨大な落差によって、西洋社会のすべてを受入れたら目標を達成できるという〝ハロー効果〟が非常に生じやすいと思われます。

近年中国で現われた〝性解放〟〝西洋崇拝〟〝全盤西化〟などの思潮氾濫はこの〝ハロー効果〟の具体的表現であります。

一つの社会は独自の歴史的伝統、民族文化を持ち、統一的発展モデルが存在するはずもありません。伝統社会は近代化社会へと転換する過程において、近代化社会の経験を参考にしながら自らの社会、民族の条件に基づいて近代化への道を選ぶべきであります。中国の基本国情を無視して盲目的に西洋近代化社会をまねることは社会主義近代化の方向を見失う恐れがあり、その結果は失敗することに他なりません。これはもう既に中国の近代史によって証明されたのであります。このために我々は西洋近代化社会の精華と糟粕を識別して〝ハロー効果〟の影響を最小限にし、社会主義近代化の方向を把握すると同時に、社会成員の行為様式と価値観を積極的に引導しなければなりません。これは非常に重要そして緊迫な問題であります。

2．滝効果（Waterfall effect）

黄果樹滝は中国西南部の貴州省にある最も大きな滝であります。しかしその源は浅くて小さな川であり、水の流れも緩やかであります。それが80数メートルの崖から流れると巨大な滝になったのです。転換期社会にもこのような現象があり、普通社会運営が穏やかに見えますが、いったん挫折するとコントロールできなくなってしまいます。我々はこのような社会現象を〝滝効果〟と称します。

転換期社会において〝滝効果〟が生ずる原因が二つあります。一つは社会構造の不安定性であり、もう一つは高い期待と社会的現実との巨大な落差であります。さきほど述べたように、社会変動には社会構造の変動、社会運営メカニズムの変動と価値観の変動があります。転換過程は、新旧の社会構造、社会運営メカニズムと価値観が雑然併存し、社会構造の安定性が比較的に低いのです。社会運営メカニズムのコントロール機能が弱くなり、敏感度が低下するようになります。伝統的価値観の影響力も低下し、社会的行為に対する指導力も失なわれます。これに対し近代的価値観はまだ完全に樹立されていなくて社会的行為に対する指導力も獲得しておりません。このため転換期社会の運営は一旦挫折すると、その勢いを失い〝滝効果〟を生ずる恐れが十分あるのです。一方伝統社会と近代社会との巨大落差により、社会成員は社会の転換そして近代化の実現に高い期待を抱いております。この高い期待は社会転換の過程を推進する巨大なエネルギー源になるものの、政府の意志決定に大きな圧力をかけることになります。社会転換の長期性、困難さに対する認識不足で〝せっかち病〟が生じやすくなります。実際に転換期社会の発展の遅れた状況を短時期で解決することはあり得ないことであり、社会転換は漸進の方式で進むべきであります。

我国の物価改革を例にみてみましょう。建国以来我国は長期にわたって統一定価を実施してきました。物価は市場の変動に影響されることなく、国家の計画によって管理されております。しかし経済改革の深化につれて、計画価格の弊害が除々に現われてきました。このためまず生産資料の計画価格の改革が決定され、1985年1月に国家物価局と国家物資局は企業が自己販売する工業生産資料に対する価格制限を取り消す通達を下して、物価改革の幕を開きました。1985年2月のある調査によると、価格改革に対して理解または支持する人は四分の三を占めました。そして同年の就業、福祉と社会保障制度に関する調査の中で、70%以上の人々は改革に対して理解と支持を示しました。これは社会成員が改革を大いに歓迎することを示しています。しかし改革はいつも順調に進むとは限りません。一旦挫折すると、インフレ、物価上昇などの現象が起こり社会運営はコントロールできなくなったのです。人々は物価改革を理解、支持することから反対するようになりまし

た。1988年のある全国的な調査によると、物価上昇は社会の解決すべきの問題の首位であると答えた人は全体の94.1%を占めました。

転換社会の〝ハロー効果〟は我々に西洋社会の高度発達の物質文明に迷わず、自分の国情をはっきり認識して中国の転換期社会の社会主義近代化方向をしっかり把握する必要性を提示したとすれば、〝滝効果〟は転換期社会の転換過程と転換の速度を把握する重要性を示したのであります。高速度だけ追求することは一旦挫折すると、社会運営の失調を起こし改革の積極性を傷つけるだけではなく、所期の目的をも達成できなくなってしまうのです。

3．連鎖効果（Grape-Cluster effect）

社会システムの各構成部分の間には連関性と全体性があり、一つの要素の変化は他の要素またシステム全体の変化を起こします。転換期社会は社会構造の調整を絶えず行なう移行性を持つ社会であり、一つの構造的変化が他の構造またシステム全体の変化を起こし、連鎖反応を生じさせます。そしてこれによって起こされた矛盾も葡萄のふさのように次から次へと発生し、旧い矛盾と問題がまだ解決されていないうちに新たな矛盾と問題が出てきます。我々はこの現象を〝連鎖効果〟（葡萄のふさ効果）と称します。

全体的に言えば、転換期社会は整合度と社会調整機能が高くなく、その社会運営も常に亜安定状態にあります。社会転換による矛盾と問題が社会の調整できる範囲を超えたときに転換期社会はその亜安定状態を失う恐れがあります。だから連鎖効果は主に中国換期社会の社会コントロールに関連し、そして〝連鎖効果〟を避ける方法として社会コントロールの改善は非常に重要であると我々は考えております。

社会転換と転換期社会は非常に重大な題目であり、中国人民大学社会学部の次の五年の重点課題でもあります。これから我々は中国の異なる地域で調査を行なうつもりです。中国の社会変動の問題に関して皆様からのご意見、ご指導を期待しております。御清聴ありがとうございました。